

東京五輪までに先行実施 A滑走路夜間延長見直し案提示 四者協議会

四者協議会後の記者会見で質問に答える森田知事（右）とNAAの夏目社長（左）＝12日夜、富里市内のホテル

成田空港の機能強化について検討する国と成田国際空港会社（NAA）、千葉県、地元9市町による「四者協議会」が12日、富里市内で開かれ、NAAは、当面の運用時間を現行より1時間延長し午前6時～午前0時とする夜間飛行制限緩和の見直し案を示した。2020年の東京五輪・パラリンピックまでにA滑走路のみで先行実施したい考え。第3滑走路整備後は、2通りの運用時間を設けてスライド運用させ、空港全体の運用時間を午前5時～午前0時30分とする案も提示。合わせて騒音影響予測範囲（コンター）が縮小しても現状の対策区域を維持するほか、落下物対策として新制度の創設や移転による集落分断解消にも配慮する。



見直し案では、騒音下住民から反発の強かった深夜早朝の発着時間を3時間延長する当初案を2時間短縮。A滑走路のみ1時間延長し、午前0時30分まで弾力的運用を認める。B滑走路は午前6時～午後11時の現行運用を維持する。

第3滑走路整備後は、午前5時～午後11時の「早番」と、午前6時30分～午前0時30分の「遅番」を設定。騒音影響が一部に集中しないよう、3本の滑走路の運用時間を定期的に入れ替えるスライド方式を導入する。

当初案から運用時間を短縮したことでコンターも縮小するが、騒音対策は「現状維持」を明記。今後行われる騒音対策区域の線引きでは「従来の運用にとらわれず柔軟に区域案を作成する」とし、県が担う騒特法の区域設定はこれまでの「組・班」単位から「区」単位に拡大。条件によっては一部が移転対象となった集落が全体で集団移転できるようにするなど従来基準の緩和を検討する。

航空機からの落下物では、県や地元市町、NAAなどによる独自の対策を創設。今後、落下物被害のあった地域を対象に移転費用の一部補助を検討するほか、NAAとして被害者に対する見舞金制度などを立ち上げる。

住宅向けには寝室への内窓設置対象を家族の人数分の部屋数まで広げ、A滑走路の夜間延長に合わせて先行して工事を実施。天井や壁の防音対策が未実施の場合は一定の支援を行う。

9市町の首長からは見直し案について「地域の要望を重く受け止め熟慮を重ねた末の提案」などと理解を示す声が大勢を占めた。

NAAの夏目誠社長は「空港の競争力強化と住民の生活環境保全を両立できる画期的な案を提示させてもらった」と述べ、理解を求めた。森田健作知事は「この方向性に向けて地域の理解を得るため丁寧に説明していく」と語った。

千葉日報 2017年6月13日 05:00